

2019年度
事業報告書

自 2019年 4月 1日
至 2020年 3月31日



公益財団法人 日本盲導犬協会

横浜市港北区新吉田町6001-9
TEL:045-590-1595 FAX:045-590-1599

I. 公益目的事業

1. 盲導犬育成事業

(1) 視覚障害者に対する歩行指導及び盲導犬貸与

本年度、30頭の盲導犬を育成し、30ユニットの視覚障害者に対する歩行指導及び盲導犬の貸与を実施した。

30ユニットの内訳は、神奈川訓練センター（以下、神奈川センター）15頭15ユニット、仙台訓練センター（以下、スマイルワン仙台）7頭7ユニット、日本盲導犬総合センター（以下、富士ハーネス）2頭2ユニット、島根あさひ訓練センター（以下、島根パピネス）6頭6ユニット。代替が16頭ユニットで、新規が14ユニットであった。

登録番号	盲導犬使用者		盲導犬			卒業年月日	新規/代替
	性別	都道府県	犬種	色	性別		
日本-937	男	埼玉県	GLDR	G	雄	2019年4月7日	新規
日本-938	女	福島県	LABR	Y	雌	2019年4月11日	代替
日本-939	男	神奈川県	GLDR	G	雄	2019年5月10日	代替
日本-940	女	島根県	LABR	Y	雌	2019年6月7日	新規
日本-941	男	広島県	LABR	Y	雌	2019年6月14日	新規
日本-942	女	宮城県	GLDR	G	雌	2019年6月26日	新規
日本-943	女	愛知県	LABR	Y	雄	2019年6月28日	新規
日本-944	男	青森県	LABR	B	雄	2019年7月5日	新規
日本-945	女	神奈川県	LABR	Y	雌	2019年7月26日	代替
日本-946	男	富山県	LABR	B	雄	2019年7月30日	代替
日本-947	女	東京都	LABR	Y	雄	2019年8月23日	新規
日本-948	男	新潟県	LABR	B	雄	2019年9月17日	代替
日本-949	男	愛媛県	LABR	Y	雄	2019年9月24日	代替
日本-950	男	茨城県	LABR	B	雌	2019年10月4日	新規
日本-951	女	東京都	LABR	Y	雌	2019年10月8日	代替
日本-952	女	埼玉県	LABR	Y	雌	2019年10月9日	代替
日本-953	男	秋田県	LABR	Y	雌	2019年10月15日	代替
日本-954	男	青森県	LABR	Y	雌	2019年10月16日	代替
日本-955	女	山梨県	LABR	Y	雌	2019年11月8日	代替
日本-956	男	富山県	GLDR	G	雌	2019年11月8日	代替
日本-957	女	東京都	LABR	Y	雄	2019年11月28日	代替
日本-958	男	埼玉県	LABR	B	雄	2019年12月10日	新規
日本-959	女	青森県	LABR	B	雄	2019年12月17日	代替
日本-960	女	茨城県	LABR	B	雌	2019年12月26日	代替
日本-961	女	岡山県	LABR	B	雄	2020年1月10日	新規
日本-962	男	愛知県	LABR	B	雄	2020年2月21日	新規

日本-963	男	神奈川県	LABR	Y	雄	2020年2月21日	新規
日本-964	女	岡山県	LABR	Y	雄	2020年3月13日	新規
日本-965	男	鳥取県	LABR	B	雌	2020年3月14日	新規
日本-966	男	静岡県	LABR	Y	雌	2020年3月24日	代替

犬種：LABR はラブラドル・レトリバー、GLDR はゴールデン・レトリバー

色：Yはイエロー、Bはブラック、Gはゴールド

(2) 盲導犬の認定

アメリカ合衆国GUIDE DOGS FOR THE BLIND, INC.の盲導犬2ユニットに対し2019年5月18日に評価会を実施し認定した。また、アメリカからとカナダから来日した2ユニットに期間限定証明書を発行した。

(3) 犬の飼育及び訓練

①候補犬の訓練

本年度に訓練した候補犬は165頭で内訳は次のとおり。なお、この期間に訓練に加わった犬は、165頭の内111頭（入所）である。

訓練終了犬	合格犬（盲導犬）	30頭
	合格犬（繁殖犬）	4頭
	キャリアチェンジ犬	77頭
	計	111頭
訓練過程犬	未決定犬	54頭

②繁殖犬の頭数と繁殖状況

本年度に、雄6頭及び雌2頭（内：外部購入雄4頭）を新たに繁殖犬として登録した。その結果、3月末現在で、雄22頭（2歳～8歳は16頭）、雌32頭（2歳～6歳は31頭）、計54頭の繁殖犬を保有している。なお、凍結精液は本年度協会内で作成した331本を含め5874本を保有している。本年度の出産頭数は94頭であった。

③パピーウォーキング委託状況

本年度に、新たにパピーウォーカー（以下、PW）に委託した頭数は78頭である。PWに対しては、スケジュールなどの共有を目的としたパピーカレンダーを定期的を送付し、ワクチンや不妊手術、眼検査の日程などスケジュール管理を計画的に行った。

④PWに対するしつけと飼育指導

訓練センターでのパピーレクチャーは合計151日243回実施し、パピー評価とパピーの訓練導入を目的として、約3～5日の預かり訓練「定期預かり訓練」を実施した。

PW家庭訪問は、神奈川センターで96回、スマイルワン仙台で21回、富士ハーネスで63回、島根パピネスで19回実施した。また、各訓練センターでしつけ指導（パピーレクチャー）を行い、神奈川センターで148回、スマイルワン仙台で36回、富士ハーネスで35回、島根パピネスで24回開催した。第11期パピープロジェクトで委託した4頭は2020年1月27日に修了式を迎えた。

⑤盲導犬の引退・ユニット解消状況

本年度に23頭、23ユニットの盲導犬が引退あるいはユニット解消した。

登録番号	盲導犬使用者		盲導犬			引退年月日	備考
	性別	都道府県	犬種	色	性別		
日本-917	女	大分県	GLDR	G	雌	2019年4月1日	
日本-681	女	神奈川県	LABR	Y	雌	2019年4月9日	
日本-588	男	神奈川県	MIXB	Y	雄	2019年4月28日	
日本-561	女	静岡県	LABR	Y	雌	2019年5月6日	
日本-697	男	富山県	LABR	B	雌	2019年7月15日	
日本-617	男	秋田県	LABR	Y	雄	2019年8月6日	
日本-916	女	岡山県	LABR	Y	雄	2019年9月1日	
日本-641	男	新潟県	LABR	B	雄	2019年9月2日	
日本-807	男	島根県	LABR	Y	雄	2019年9月3日	
日本-603	男	愛媛県	GLDR	G	雄	2019年9月9日	
日本-586	女	埼玉県	LABR	Y	雌	2019年9月9日	
日本-585	女	東京都	LABR	B	雌	2019年9月23日	
日本-659	男	青森県	LABR	Y	雌	2019年10月1日	
日本-569	女	山梨県	LABR	Y	雄	2019年10月21日	
日本-638	男	富山県	GLDR	G	雌	2019年10月28日	
日本-605	男	岡山県	LABR	Y	雄	2019年11月6日	
日本-589	女	東京都	LABR	B	雄	2019年11月11日	
日本-925	男	新潟県	LABR	Y	雌	2019年12月2日	
日本-830	女	青森県	LABR	Y	雄	2019年12月3日	
日本-692	女	東京都	LABR	B	雌	2019年12月15日	
日本-625	男	神奈川県	LABR	Y	雌	2019年12月20日	
日本-613	女	茨城県	LABR	B	雄	2019年12月24日	
日本-653	男	静岡県	LABR	B	雌	2020年3月9日	

⑥犬舎及び医療管理

ワクチネーションプログラムを見直し各訓練センター統一した基準を設けた。治療に対しては、原因究明を徹底するため獣医師と連携し、早期治療に努めた。ケンネルコフ等の対応や疾患の早期発見による医療管理体制も改善している。大学付属病院と提携し医療体制をより充実させた。職員が積極的に医療セミナーに参加し、医療情報を更新した。

⑦協会所有犬一覧

協会所有犬 一覧 (2020年3月31日現在)									
区分	性別	頭数	飼育管理						
			訓練センター				使用者・ボランティア		
			神奈川	仙台	富士宮	島根	神奈川	仙台	富士宮

繁殖犬	雄	22	0	0	0	0	22	0	0	0
	雌	32	0	0	0	0	32	0	0	0
	小計	54	0	0	0	0	54	0	0	0
パピー		104	0	0	26	0	44	12	18	4
訓練犬		52	28	23	1	0	0	0	0	0
盲導犬	雄	131	0	0	0	0	60	32	23	16
	雌	127	0	0	0	0	65	31	14	17
	小計	258	0	0	0	0	125	63	37	33
引退犬		156	0	0	0	0	89	30	22	15
繁殖引退犬		52	0	0	0	0	50	0	2	0
PR 犬		12	4	0	3	0	3	0	0	2
合計		688	32	23	30	0	365	105	79	54

(4) 盲導犬使用者（以下、ユーザー）に対するフォローアップ（以下、FU）

当協会全ユーザーに対して定期的に状況確認し、問題の予防と早期発見早期解決に努めた。定期FUは神奈川センター163回、スマイルワン仙台95回、富士ハーネス57回、島根パピネス48回、合計363回実施した。

定期以外の問題解決型FUは神奈川センター59回、スマイルワン仙台16回、富士ハーネス68回、島根パピネス8回、合計151回実施した。

各拠点で新ユニット出発式を実施し、合計33名のユーザーが参加した。式典・祝賀会と併せて合同の定期FU会を実施した。

また、夏季には全ユーザーに対して犬の熱中症対策への注意喚起を実施した。

(5) 盲導犬訓練技術・育成技術の向上

指導効果が見える化し戦力分析を行うためのスキルマップ評価が定着。GDT・GDIそれぞれのスキルが着実に向上している。

より安全で快適な盲導犬歩行および盲導犬との生活を目指して、他犬種訓練、雪道歩行実地研修の実施をしている。また試作していた伸縮性バーハンドル型ハーネスを量産し現ユーザーに配布した。

(6) 各種研修会等への参加

神奈川センターで行われた全国盲導犬施設連合会主催の第5回盲導犬育成ジャパンセミナーに53名が参加、2題の口頭発表を行った。

岩手県盛岡市で行われた視覚障害者リハビリテーション大会に職員9名が参加するなど、リハビリ関連、獣医療セミナーなどの各種研修会に積極的に職員を派遣。また、外部講師を招き超音波診断装置の取扱の実習を協会内で実施した。

(7) 施設整備

神奈川訓練センターに隣接する第三京浜道路都筑インターチェンジ高架下の土地を訓練場として使用するために占用申請を行いドックラン場として整備した。

2. 盲導犬歩行指導員等育成事業

(1) 盲導犬歩行指導員・盲導犬訓練士の認定

本年度は盲導犬歩行指導員・盲導犬訓練士の認定はなかった。昨年から引き続き研修生2名に対し2020年度盲導犬訓練士資格認定に向けた研修を行っている。再開した訓練士学校では5名が1年目課程を修了した。

3. 調査研究事業

(1) 凍結精液の作成・繁殖研究

凍結精液作成・人工授精による繁殖法はある一定の技術が定着した。ゴールデンレトリバーでの凍結精液による人工授精の成功率向上のため、LHサージとプロジェステロン値との関連性におけるラブラドールレトリバーとゴールデンレトリバーの犬種差を調査した。

繁殖犬の選抜や交配マッチングに役立てるため皮膚疾患・膝関節・稟性傾向の遺伝率解析研究のためのデータ収集等を実施した。

(2) 研究協力

盲導犬の成功率向上、健康面改善を目的に、東京大学、麻布大学による研究に継続して協力した。東京大学の盲導犬歩行学研究室の悪性腫瘍等の遺伝子解析着手に協力した。

4. ユーザーサポート事業

(1) 盲導犬歩行についての理解促進

盲導犬希望者に対し、体験歩行会（日帰り）と盲導犬説明会（1泊2日）を各センターで開催した。体験歩行会は、関係団体とも連携し、神奈川センターで24回開催313名の参加、うち44名が新規登録、スマイルワン仙台で32回開催80名の参加、うち12名登録、富士ハーネスで9回開催40名の参加、うち7名登録、島根パピネスで7回開催78名の参加、うち13名登録、計72回開催し511名の視覚障害者の参加があり、うち76名の新規登録があった。また、センターへの直接問い合わせによる新規登録が47名あった。盲導犬説明会は、神奈川センターで7回開催13名参加、スマイルワン仙台で5回開催6名参加、富士ハーネスで3回開催6名参加、島根パピネスでは個別対応をし、計15回開催し25名の視覚障害者が参加した。

(2) ユーザーコミュニケーション

ユーザーとのコミュニケーションを進めるため、年1回の定期報告を電話やメール、インターネットを利用して聞き取り、ユニットの歩行状況、生活状況を把握し、その情報を訓練部と共有した。また、盲導犬が6歳になるユーザーを対象に、盲導犬6歳時コミュニケーション会を各拠点で開催し、31名が参加した。

(3) 視覚障害者在宅生活指導（白杖歩行訓練等）

神奈川センター、スマイルワン仙台、富士ハーネス、島根パピネスにおいて、計541名に対し、799コマの訓練を行った。

- (4) リハビリテーション相談
盲導犬希望者、在宅訓練希望者、短期リハ希望者等154名に対し157回の相談に応じ、必要な助言等を行った。
- (5) 短期リハビリテーション訓練
スマイルワン仙台において合計5回の短期リハを実施した。参加者は合計17名のうち14名が新規参加者であった。なお、当事者の地元に出向く出張型短期リハ（岩手県と新潟県で実施し4名参加）や中学生を対象にした短期リハ（夏休みにスマイルワン仙台で実施、5名参加）とニーズに合わせ実施した。
- (6) 視覚障害児キャンプ
スマイルワン仙台にて視覚障害児キャンプを実施した。12家族が参加し、視覚障害児は12名で家族を含めると28名となった。うち新規参加は10家族であった。
- (7) 各種研修会への参加
盛岡市で開催された視覚障害リハビリテーション研究発表大会へスマイルワン仙台職員が盲導犬体験歩行ブースを出展し参加した。また、同大会で理事1名、職員1名が発表を行った。
- (8) 講師派遣、各種講習会の開催
講師派遣の依頼を受け、支援者向け講習会を宮城県で1回、福島県で2回、岩手県で1回、静岡県で9回、計13回、263名に対して実施した。当事者向け講習会は宮城県で3回、福島県で3回、茨城県で1回、計7回、86名に対して実施した。
協会の自主事業として、支援者向け講習会を1回、4名に、昨年引き続き株式会社ファンケルの協力を得てメイクセミナーを1回、23名が参加、またJR東日本の協力を得て視覚障害者向け鉄道利用講習会を1回、17名の参加で初めて行った。震災被災地域の病院での講習会を3回、31名が参加し、実施した。
- (9) パートナーズの発行
ユーザーをはじめとする視覚障害者への情報提供として「パートナーズ」を年4回発行した。

5. 啓発事業

多くの市民に実際に盲導犬をみってもらうことで、盲導犬（補助犬）の受け入れの促進と、視覚障害と盲導犬への理解をはかることを目的とし、「Heart to Heart」の精神で盲導犬普及啓発街頭活動を積極的に展開、盲導犬ユーザー・ボランティアと職員が一致協力して、各訓練センターが地域に根ざした独自の活動を行った。

- (1) 見学会の開催
各訓練センター内で見学会を次のとおり実施した。

① 神奈川センター	見学会	4回	(参加者数 198人)
	団体見学会	26回	(参加者数 344人)
② スマイルワン仙台	見学会	6回	(参加者数 210人)
	団体見学会	27回	(参加者数 740人)
③ 富士ハーネス	見学会	467回	(参加者数 16,719人)
	団体見学会	206回	(参加者数 6,957人)
④ 島根パピネス	見学会	1回	(参加者数 35人)
	団体見学会	14回	(参加者数 353人)

(2) 盲導犬普及啓発街頭活動

盲導犬事業への理解を求め街頭での啓発活動を合計268回実施した。

① 神奈川センター	……	82回
② スマイルワン仙台	……	91回
③ 富士ハーネス	……	45回
④ 島根パピネス	……	50回

(3) 盲導犬普及商業施設活動

(i) デパート・スーパーでの「盲導犬ふれあい広場」の開催

商業施設の協力を得て、視覚障害と盲導犬への理解をはかることを目的とし、商業施設内において盲導犬普及啓発活動を合計82回実施した。

① 神奈川センター	……	39回
② スマイルワン仙台	……	20回
③ 富士ハーネス	……	5回
④ 島根パピネス	……	18回

(ii) 全国盲導犬施設連合会「全国盲導犬普及キャンペーン」への参加

全国盲導犬施設連合会主催の「全国盲導犬普及キャンペーン」に合計4回対応した。

① 神奈川センター	……	4回
② スマイルワン仙台	……	0回
③ 富士ハーネス	……	0回
④ 島根パピネス	……	0回

(4) 訓練センター外での実演・講演等

盲導犬や、身体障害者補助犬法・障害者差別解消法への理解促進のためにセンターで実施した実演・講演は計159回、社会貢献活動を実施した企業・団体での贈呈式は85回、合計244回実施した。

(i) 実演・講演

① 神奈川センター	……	78回
② スマイルワン仙台	……	43回
③ 富士ハーネス	……	23回
④ 島根パピネス	……	15回

(ii) 贈呈式

① 神奈川センター	……	28回
-----------	----	-----

- ② スマイルワン仙台 …… 26回
- ③ 富士ハーネス …… 19回
- ④ 島根パピネス …… 12回

(iii) 盲導犬小中学校キャラバン

次世代を担う子供たちに対して視覚障害と盲導犬への理解をはかることを目的とし、全国の小中学校訪問活動を中心とする小中学校キャラバンを合計328回実施した。

- ① 神奈川センター …… 84回
- ② スマイルワン仙台 …… 117回
- ③ 富士ハーネス …… 27回
- ④ 島根パピネス …… 100回

(5) 理解促進イベントの開催

各訓練センターで、盲導犬体験活動を通じた啓発イベントを開催した。

① 神奈川センター

医療機関、医療従事者教育機関にて「受け入れセミナー」を計13回、また、神奈川県立こども医療センター（横浜市）、ファミリーハウスリラの家（横浜市）、茨城県立こども病院（水戸市）、沖縄県立南部医療センター・こども医療センター（沖縄県南風原町）、沖縄南部療育医療センター（那覇市）、琉球大学医学部付属病院（沖縄県西原町）において計31回の動物介在活動（AAA）を実施し、医療機関への盲導犬ユーザーの盲導犬同伴への受け入れ促進と啓発活動を行った。

北里大学メディカルセンターの動物介在療法（AAT）へも引き続き協力している。東京都、神奈川県、千葉県の鉄道事業者計6社と国土交通省関東運輸局ビジネス講座にて盲導犬受け入れセミナーを計9回実施。視覚障害者への声かけや案内方法についての理解促進を行った。

② スマイルワン仙台

宮城県や仙台市の保健所と連携し、飲食店の代表者と食品衛生責任者を対象とした受け入れセミナーを計20回開催し、盲導犬ユーザーの盲導犬同伴への理解促進と啓発活動を行った。

③ 富士ハーネス

GW、夏休み期間に特別イベント、12月にキャンドルナイトを開催し、積極的に来場者を誘致した。また、夏休み自由研究コンテストでは、優秀作品7作品を表彰した。

④ 島根パピネス

広島電鉄、ホテルニューヒロデンで盲導犬受け入れセミナーを計2回開催した。島根大学医学部附属病院新病棟小児センターで動物介在活動（AAA）活動を1回実施した。

(6) 広報活動

(i) メディア対応とPR活動

メディアリリースを21回実施。メディア掲載回数は442回だった。

	神奈川センター 東京事務所	スマイルワン仙台	富士ハーネス	島根パピネス
--	------------------	----------	--------	--------

新聞	18	20	11	54
テレビ	41	36	52	16
WEB	82	12	11	24
その他	44	14	3	4
合計	185	82	77	98

(ii) 会報誌「盲導犬くらぶ」の発行

A4版16ページの会報誌を、年4回(94号～97号)、合計194,081部、音声CD847部を発行した。

(iii) 刊行物の企画・管理

メディア掲載をまとめパブリシティー結果報告書を制作した

(iv) 電子メディアの運営

① ホームページの運営

年間訪問者数596,255人

② SNS、ブログ運営

フェイスブック更新39回、フォロワー数3,426人、ツイッター304回更新、フォロワー数8,446人、アメーバブログでは83回の情報を配信した。

(v) 情報管理

猛暑の中の盲導犬歩行に対する多数の意見・問い合わせ、盲導犬の使い方、虐待情報等が135件ありこれに対応した。なお、こうした情報は他協会の案件が多数。

6. 関係団体協力事業

(1) 日本盲導犬協会ユーザーの会、ボランティア委員会との協力

ユーザーの会主催の総会、盲導犬歩行ワークショップ開催への支援・協力を行うことにより、ユーザーとの協力・連携を深めた。また、各センターで慰霊式を開催し、多くの盲導犬ユーザー、ボランティアの参加を得た。毎月一回行われるボランティア委員会の会合に参加しボランティアとの意見交換を行ったほか、ボランティア委員会と共催で年末懇親会を実施した。

(2) 全国盲導犬施設連合会、全日本盲導犬使用者の会、アジア・ガイドドッグ・ブリーディング・ネットワーク(以下、AGBN)、その他補助犬団体への協力

① 全国盲導犬施設連合会の理事長、運営委員・訓練士認定委員として連合会の運営に貢献した。第5回盲導犬育成ジャパンセミナーを主管団体として開催した。

② 全日本盲導犬使用者の会が福島県で開催した総会・交流会への運営協力をした。

③ AGBNの運営・実務者会議へ出席し、他の育成団体との情報交換、繁殖協力を行った。犬の行動評価GDBart・BCLテストを引き続き実施した。

(3) 日本盲人社会福祉施設協議会、日本視覚障害者団体連合、日本盲人福祉委員会、日本動物病院福祉協会、視覚障害リハビリテーション協会、日本身体障害者補助犬学会、日本介助犬協会、聴導犬育成団体等への協力

① 日本盲人社会福祉施設協議会の理事として協議会運営に貢献するとともに、自立訓練

ディレクトリーの制作および盲導犬年次報告書を作成した。

- ② 日本盲人福祉委員会評議員として貢献するとともに、日盲委が開催した災害時視覚障害者支援リーダー養成会に職員を講師派遣および資金支援を行った。
- ③ 日本介助犬協会の評議員として貢献。また、普及活動に協力した。
- ④ 視覚障害リハビリテーション協会および日本身体障害者補助犬学会の事務局運営に貢献するなど、各種団体との連携を深め広く協力体制を整えた。

(4) 国際盲導犬連盟（IGDF）への協力

IGDFの理事および査察員としてIGDFの運営に貢献した。

(5) 諸外国の盲導犬施設との交流

小田常任理事がIGDF理事として理事会に出席し運営執行をした（内1回は渡欧、もう1回はホストとして新横浜で開催）。イギリスの盲導犬協会およびチェコの繁殖施設と協力関係を強化した。

7. その他

(1) 未来構想推進（井上ビジョンの展開）について、次の諸活動に取り組んだ。

- ① 盲導犬コミュニティハウスに関しては、既取得用地上の施設建設設計案作成に加え、新たに都内候補地を調査し、実現可能性及び条件比較検証に取り組んだ。
- ② 2019年7月より東京大学キャンパスに社会連携講座（盲導犬歩行学分野研究室）を開設し、12月にキックオフシンポジウムを開催し、ゲノム解析研究をはじめ、共同研究テーマに関して、東大内外の各分野の研究者との関係構築に取り組んだ。

(2) 人材育成

- ① 自由研究およびQCサークル活動を奨励、職員研究発表大会を2019年12月に開催し10題が発表された。
- ② 同行援護従事者研修に職員3人を派遣し、資格取得した。
- ③ 獣医療研修に獣医療関係職員3人を8回派遣した。

(3) 東日本大震災支援

- ① 被災地域から要請のあったリハビリテーションに対し、在宅訓練として実施した。
- ② 日本盲人福祉委員会に協力要請のあった東日本震災の被災者調査に協力した。
- ③ 日本盲人福祉委員会が開催した災害時視覚障害者支援リーダー養成会に職員を講師派遣および資金支援を行った。

(4) 協会ICTインフラの整備

- ① 東京事務所ならびに各訓練センター（神奈川、仙台、富士宮）のWi-Fi機器を更新し、データ通信の高速化とセキュリティの強化を図った。
- ② 働き方改革に適應した災害に強いシステム構築を目指し、アプリケーションの検証と選定を行い、導入スケジュールの検討と開発体制の整備を行った。

II. 管理・運営

1. 理事・監事・評議員の状況

総数（2020年3月31日現在）

理事…12人、監事…3人、評議員…14人

2. 理事会・評議員会・常任理事会の開催状況

(1) 理事会の開催状況

開催年月日	現在数	出席数	議案	審議結果
2019年 5月29日	15人 (内監事 3人)	13人 (内監事 3人)	第1号議案／2018年度事業報告及び決算報告の件 第2号議案／「盲導犬コミュニティハウス」用地購入の件 第3号議案／「東京大学大学院新領域創成科学研究科 ～盲導犬歩行学分野」社会連携講座の件 第4号議案／評議員会の開催の件	議決 (賛成多数)
2019年 10月29日	15人 (内監事 3人)	13人 (内監事 3人)	報告事項／2019年度 上半期事業及び収支報告の件 報告事項／資産運用の見直しの件 報告事項／業務執行理事の職務の分担執行状況の報告の件	議決ナシ
2020年 3月24日	15人 (内監事 3人)	15人 (内監事 3人)	第1号議案／2020年度事業計画の件 第2号議案／2020年度予算の件 第3号議案／業務執行理事の職務の分担執行状況の報告の 件	全理事同意 全監事同意 決議の省略

(2) 評議員会の開催状況

開催年月日	現在数	出席数	議案	審議結果
2019年 6月25日	14人	13人 (内監事 2人)	第1号議案／2018年度事業報告及び決算報告の件 報告事項／「盲導犬コミュニティハウス」用地購入の件 報告事項／「東京大学大学院新領域創成科学研究科 ～盲導犬歩行学分野」社会連携講座の件	議決 (賛成多数)
2019年 10月29日	14人	14人 (内監事 3人)	報告事項／2019年度 上半期事業及び収支報告の件 報告事項／資産運用の見直しの件 報告事項／業務執行理事の職務の分担執行状況の報告の件	議決ナシ

(3) 常任理事会の開催状況

常任理事会を次のとおり開催し、日常業務の執行及び重要業務の協議決定を行った。

2019年4月16日、5月16日、7月10日、8月23日、9月20日、10月11日、
11月15日、12月17日、2020年1月14日、2月13日、3月6日。

3. 職員の状況

2020年3月31日現在の職員の状況は以下の通りである。

センター	部署	男	女	計
東京事務所	総務部	3	7	10
	普及推進部	2	0	2
	センター計	5	7	12
神奈川センター	総務部	2	3	5
	訓練部	4	22	26
	ユーザーサポート部	2	2	4
	普及推進部	1	4	5
	センター計	9	31	40
スマイルワン仙台	総務部	1	1	2
	訓練部	2	11	13
	ユーザーサポート部	1	2	3
	普及推進部	1	3	4
	センター計	5	17	22
富士ハーネス	総務部	1	2	3
	訓練部	2	11	13
	ユーザーサポート部	0	1	1
	普及推進部	3	1	4
	センター計	6	15	21
島根パピネス	総務部	1	1	2
	訓練部	2	5	7
	ユーザーサポート部	0	0	0
	普及推進部	0	2	2
	センター計	3	8	11
職員合計	総務部	8	14	22
	訓練部	10	49	59
	ユーザーサポート部	3	5	8
	普及推進部	7	10	17
	総計	28	78	106
常勤理事		3	0	3

センター長・東京事務所管理長は総務部に含める

2019年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」は存在しないので記載を省略する。

公益財団法人 日本盲導犬協会